

環境活動報告 2010 年度



成蹊学園の環境側面

環境側面とは、成蹊学園が教育研究を進めていく上で環境と相互に関係しうる内容のことです。

たとえば、環境保全に関する教科を設置すると「プラスの環境側面」、電気や紙を使用すると「マイナスの環境側面」となります。



プラスの環境側面 全項目で 2010 年度目標を達成しました。

環境方針	著しい環境側面	目的 2008 ～ 2010 年度	目標 2010 年度	達成状況
環境問題に貢献する人材育成および環境分野の研究推進	環境教育・学習プログラムの提供	小・中高・大学における環境教育・学習を推進する。	小・中高・大学における環境教育・学習の機会を増やし、充実させる。	○
環境問題に貢献する人材育成および環境分野の研究推進	環境関係の研究の実施	中高・大学における環境関係の研究を充実させる。	中高・大学における環境関係の研究をさらに増やし充実させる。	○
環境に関する教育研究の発進・公開、社会貢献を図る諸活動	環境問題に対する理解と関心の向上	学園における環境教育・学習について、発信・公開するとともに自らの環境への意識を高める。	学園における環境教育・学習について、発信・公開するとともに自らの環境への意識を高める。	○
近隣地域とのコミュニケーションを図る	地域とのコミュニケーション	地域社会とのコミュニケーションのさらなる充実を図る。	地域社会とのコミュニケーションのさらなる充実を図る。	○
みどり豊かなキャンパスの充実と環境に配慮したキャンパスづくり	環境の整備・緑の保全・充実	キャンパスの緑の維持と適正な計画による整備・充実を図る。	キャンパスの緑の維持と適正な計画による整備・充実を図る。	○



マイナスの環境側面

環境方針	著しい環境側面	目的 2008 ～ 2010 年度	目標 2010 年度	達成状況
環境負荷の低減と環境汚染の防止（省エネルギー）	電力・ガスの使用	電気・ガス使用量の削減（3 年間で 3%削減）	電気・ガス使用量を 2007 年度（基準年）実績に対し、3%削減する。	電気：○ ガス：× ※1
環境負荷の低減と環境汚染の防止（省資源）	水の使用	水の使用量の削減（3 年間で 1%削減）	水の使用量を 2007 年度（基準年）実績に対し、1%削減する。	○
環境負荷の低減と環境汚染の防止（省資源）	紙の使用	紙の使用量の削減（3 年間で 2%削減）	紙の使用量（OA 紙・封筒購入量）を 2008 年度（基準年）実績に対し、2%削減する。	× ※2
環境負荷の低減と環境汚染の防止（廃棄物の減量）	使い捨て容器・箸・レジ袋の使用	使い捨て容器・割り箸・レジ袋の削減	使い捨て容器・割り箸・レジ袋の削減を手順に基づいて実施する。	○ ※3
環境負荷の低減と環境汚染の防止	製品の購入	グリーン購入の取組みを促進する。	事務用品の購入金額に占めるグリーン購入の割合を前年度より増やす。	○
環境に関連する法的要求事項の遵守	化学物質の使用	化学物質の適正な管理を進める。	化学物質の適正な管理を実施し、維持する。	-

備考：○は目標を達成したもの、－は数値目標をおかなかったもの

※1 昨年は猛暑日が多く空調機の利用が増えたことがガス使用量増大の原因と考えられます。

※2 各種会議資料の増加や、学生に対する印刷スキルの指導が行き届かなかったことが用紙使用量増加の要因と考えられます。

※3 数値の測定は割り箸のみ実施



各学校の環境活動状況

学校法人成蹊学園

【活動内容】

- 地域清掃活動の定着と継続実施をめざします。
- キャンパス内の桜並木など、樹木の保全を推進します。
- 学園の環境への取り組みを内外に周知し、マナー向上をめざします。

【活動内容】

2008年11月のISO14001認証取得後も環境改善活動を続け、2009年度も学園として掲げた環境目標はすべて達成することができました。6月に行われた内部環境監査には前年度よりも多い9名の学生が監査員として参加し、環境改善活動の広がりを感じられる出来事となりました。9月には外部機関による審査が行われ、「学園全体として積極的な取り組みが展開され、目的・目標達成状況も良好である」との評価をいただき、認証継続となりました。

また、2011年度のISO14001の認証更新を控え、2010年7～9月に全教職員に対してアンケートを行い、新しい環境目的・目標（環境目的は「環境のたより」の表紙に掲載されています）を設定しました。

成蹊小学校

【活動内容】

- 野菜の栽培から調理までの一貫した食農教育をさらに押し進めます。
- 樹木・草花の表示を通して、身近な植物への興味・関心をより高めていきます。
- 毎昼の全校清掃時間を確保し、共に力を合わせて校内の美化をめざします。

【活動内容】

1年各教室南側のテラスでは、2010年もゴーヤを栽培して、南面のガラス戸を覆い隠すほどの「緑のカーテン」づくりに成功しました。猛暑が続く中で、子どもたちは快適な空間を楽しむだけでなく、ゴーヤを調理して食べる楽しみも味わうことができました。施設設備面では、松林館周辺にある松やイチョウ等の大木の大規模な剪定を行いました。その結果、その周辺の百日紅やハナミズキの今後の変化も楽しみとなっています。

成蹊中学校・高等学校

【活動内容】

- 授業や行事において環境に関する教育を充実させます。
- 生徒会を中心として、リサイクルなど、環境に関わる活動を推進します。
- 施設や備品を長く大切に使い資源の有効活用と環境美化に努めます。

【活動内容】

理科、社会科、家庭科などを中心に、環境に関する授業を展開し、また、自然観察会や宿泊行事、気象観測等を通じて、環境について考えました。生徒会を中心に、アルミ缶やペットボトルキャップの回収を行い、特に文化祭では、中学・高校の生徒会が協力し、燃えないゴミを緑日で使用しないように徹底し、分別するゴミ自体の削減に取り組みました。さらに、日頃からも敷地内の緑化を推進し、緑の保全に努めています。

成蹊学園

[法学部・経済学部・文学部]

【活動内容】

- 2010 年度開設の成蹊教養カリキュラムに「成蹊環境セミナー」をはじめとする環境科目を開設し、学部横断での環境教育を実施します。
- 内部環境監査員の資格を得た学生が、監査員として実際に学部の内部環境監査に参加できる環境を整えていきます。

【活動内容】

大学の環境に対する社会的貢献及び責任として、教育研究を通じて、毎年多くの環境マインドを持った卒業生を社会に送り出せるよう努めています。2010 年度から学部横断の成蹊教養カリキュラムが始まり、「成蹊環境セミナー」をはじめとする環境科目を開講し環境教育を実施しました。また、学生を対象に内部環境監査員養成セミナーを開き、大学の環境活動に対する理解の促進を図りました。更に内部環境監査員の資格を得た学生が、監査員として実際に学園の内部環境監査に参加しました。

[理工学部]

【活動内容】

- 環境に関するプロジェクトで得られた多くの研究成果を広く公表していきます。
- 成蹊教養カリキュラムとして全学部学生を対象にした「環境の科学」の講義を開講します。
- 学園全体での薬品や高圧ガスの使用量や貯蔵量に関する管理を法令順守の観点に基づき実施します。

【活動内容】

理工学部では、2008 年度より、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業補助金に基づき「人と環境にやさしい統合化された社会システム研究基盤整備」をテーマとした研究プロジェクトを行っています。2011 年度は、大学 11 号館に太陽光発電システム設備を設け、発電した電気を掲示板の照明に使用しています。

また、インドにおける *Jatropha* の木の実からのバイオディーゼルオイル抽出など、環境に優しい研究・教育を積極的に勧めています。

エネルギー消費状況

2010 年度エネルギー消費状況

<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/data2010.pdf>

CO₂ 換算データ

<https://www.seikei.ac.jp/gakuen/kankyo/data/yeardata.pdf>

2010 年度学園全体のエネルギー使用状況（2007 年度比較データ）

電気使用量 (kwh)

建物やグラウンドの照明や冷暖房設備（一部）に使用しています。



ガス使用量 (m3)

冷暖房設備のほとんどはガス（GHP 方式）を使用しています。



灯油使用量 (リットル)

学園北プールの温水循環用ボイラー燃料などに使用しています。



水道使用量 (m3)

各学校キャンパスにある建物や食堂の水として使用しています。



CO₂ 換算排出量 (tCO₂)

電気、ガス、重油、灯油の各使用量を CO₂ 排出量に換算し、足し合わせた値です。





1 馬場砂入れ替え

砂塵の抑制、及び水捌けの改善を目的に、馬場の砂を入れ替えました。
JRA（日本中央競馬会）指定の良質な砂を使用しました。



2 大学3号館の照明を更新

大学3号館の教室照明器具を従来の40W型から省エネルギーでCO2削減効果のある32W型へと更新しました。2011年度は大学9号館の照明器具を更新する予定です。

